

表 1515 2016年中の出口部感染発症率(回/1患者・年) 治療方法(新分類)別(腹膜透析単独患者)

治療方法 (新分類)	0	1.0～	2.0～	3.0～	4.0～	5.0～	合計	不明	記載なし	総計	平均	標準偏差
腹膜透析 (CAPD) (%)	2,073 (81.0)	306 (12.0)	105 (4.1)	37 (1.4)	15 (0.6)	22 (0.9)	2,558 (100.0)		1,578	4,136	0.36	1.17
腹膜透析 (APD) (%)	1,111 (79.8)	173 (12.4)	65 (4.7)	25 (1.8)	7 (0.5)	11 (0.8)	1,392 (100.0)		726	2,118	0.36	0.95
腹膜透析 (CCPD) (%)	344 (78.0)	66 (15.0)	15 (3.4)	9 (2.0)	6 (1.4)	1 (0.2)	441 (100.0)		236	677	0.35	0.80
合計 (%)	3,528 (80.3)	545 (12.4)	185 (4.2)	71 (1.6)	28 (0.6)	34 (0.8)	4,391 (100.0)		2,540	6,931	0.36	1.07
記載なし (%)												
総計 (%)	3,528 (80.3)	545 (12.4)	185 (4.2)	71 (1.6)	28 (0.6)	34 (0.8)	4,391 (100.0)		2,540	6,931	0.36	1.07

数値下のかっこ内は行方向の合計に対する%です。
 個々の患者の出口部感染発症率(回/1患者・年)は、1.0未満の数値が0となるため、「0」と表示しています。
 *腹膜透析(CCPD)は、APDと手動のバック交換の両方を行うもの
 ##D6017##
 (C)Japanese Society for Dialysis Therapy
 2016年調査